

東京大学史料編纂所 国際研究集会

「近代修史事業と史料集編纂の150年」

明治2(1869)年、江戸幕府が後援した和学講談所の事業を継承しつつ、維新政府により史料編輯国史校正局が設置され、近代修史事業が開始されました。「修史」の意義と「政務」の振興を説き三条実美を総裁に任命した「明治天皇宸翰御沙汰書」が東京大学史料編纂所に所蔵されています。

史料編纂所の前身機関は、その後帝国大学に移管され、曲折を経、史料研究・編纂・出版事業がはじまり現在に至っています。近代修史事業150年を機に研究所の事業を振り返り、史学史的に位置づけるため国際研究集会を開催します。

日時:2019年11月8日(金)、14:00~17:20
会場:東京大学史料編纂所 大会議室
(福武ホール地下1F)

- <講演1> マーガレット・メール (University of Copenhagen)
Margaret MEHL 「Historiography, Chinese Learning(*Kangaku*), and the State : between Classical and National Scholarship 」(講演は日本語)
- <講演2> 千葉 功 (学習院大学)
「史料編纂事業への転回—久米事件と南北朝正閏問題—」
- <報告1> 箱石 大 (史料編纂所)
「明治太政官文書研究からみた「宸翰御沙汰書」」
- <報告2> 井上 聡 (史料編纂所)
「所史資料調査の現状と展望—本所所蔵『往復』を中心に—」

主催:東京大学史料編纂所

参加費:無料、事前申込は[こちら](#)

共催:東京大学史料編纂所所史資料調査ワーキンググループ / 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター「本所における画像史料の複製集積過程の研究」プロジェクト / 維新史料研究国際ハブ拠点形成プロジェクト